



(1) 神山STYLE2030

創立50周年を迎えた2015年に、15年後となる2030年においても日本を代表する私立大学の一角を担う存在であり続けるため、中長期事業計画「神山STYLE2030」を策定。2030年までの15年間で5年ごとに「改革期」「発展期」「充実期」の3期に分けて進行しており、2021年度からは第2期となる「発展期」が始動している。



URL <https://www.kyoto-su.ac.jp/about/granddesign/index.html>

(2) ソフトバンク・LINEとの包括連携協定

正式名称は「先端技術を活用した新しい学生生活の実現・研究に関する包括連携協定」。スマートキャンパス化を推進し、Society 5.0をリードしていく人材育成を目指す。

(3) アントレプレナー育成プログラム

全学部が参画する文理融合の正課教育として2023年度にスタート。京都市内に構える「町家 学びテラス・西陣」に加え、起業活動の拠点となる新たな施設をキャンパス内に設置し、起業支援の充実に向けて産業界との連携も推進。

(4) 京都産業大学の研究力

学術誌『ネイチャー』掲載論文数、研究論文の国際共著率は朝日新聞出版「大学ランキング2024」の該当項目から独自集計。科研費大型研究種目・新規採択は文部科学省「令和2年度科学研究費助成事業の配分について」より引用。

(5) 共同研究推進サポート制度  
(共同研究プロジェクト運営支援)

京都産業大学の知を集結した新たな領域への挑戦や、卓越した成果が期待できる“共同研究”に対して支援を行う制度。設立初年度となる2022年度は3件の研究課題が採択され、いずれも複数の学部の教員が連携する学部融合の研究内容となっている。



と提携し、3週間から1か月程度の就業体験ができるプログラムで、異文化適応力やコミュニケーション能力を養うだけでなく、大学での学びや卒業後の進路についても体系的に考える機会となっています。

さらに、低成長時代を迎え、世界中でイノベーションの創出が求められる中、10学部の教員が協力して体系的なプログラムを開発した「アントレプレナー育成プログラム」にも注目が集まっています。

これは建学の精神にも関連しますが、社会のさまざまな課題に対し、解決の方法として新しい業(わぎ)を起すことも大きな社会貢献の一つです。ゼロベースでの起業だけでなく、家業を継ぐ予定の学生が発展的な事業承継に向けて学べることも多いプログラムです。京都産業大学の学生たちは、民間のビジネスコンテストなどでも文理融合でチームを作り、非常に面白い取り組みをプレゼンするなど活躍しています。

論文の国際共著率も全国私立大学2位。全国の私立大学の中で、京都産業大学は科学研究費大型研究種目に新規採択された3校のうちの1校です。

京都産業大学の創設者・荒木俊馬は著名な宇宙物理学者であり、国内の私立大学では最大規模の反射式望遠鏡である神山天文台を備えているところにも大きな強みがあります。これまでも独自の観測装置を作り、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の金星探査機「あかつき」に搭載して金星の大気構造を解明するなど、世界的な成果を挙げてきました。昨年10月には神山宇宙科学研究所を新たに開設し、産官学連携・学際融合による宇宙ビジネスへの参入や人材育成に取り組んでいます。

さらに、「タンパク質動態研究所」では、生命活動を担う最重要分子であるタンパク質の研究を通して、人類が抱えるさまざまな病態の解明と克服を目指しているほか、開学以来の伝統をもつ「世界問題研究所」や「日本文化研究所」「社会安全・警察学研究所」なども活発な活動を行っています。

2022年度には学部横断型による共同研究推進サポート制度が始まりました。社会的課題の多くは、いくつかの要因が複雑に絡み合い、単一学部の知見だけでは解決が困難だ



わが国を代表する宇宙物理学者の一人、荒木俊馬によって1965年に創設された京都産業大学。「将来の社会を担って立つ人材の育成」を建学の精神に掲げ、「学問と産業をむすぶ」教育理念のもと、今日では文系・理系合わせて10学部体制にまで発展。外国人留学生を含め1万5000人を超える学生が、京都市北区に位置する西日本屈指の「一拠点総合大学」のもとで学んでいます。

2015年に策定されたグランドデザイン「神山STYLE2030」も、改革期から発展期、さらには円熟の充実期へと差し掛かり、先進のスマートキャンパス構築に向けた大学改革を展開。さらに、創設以来の伝統である産学連携プログラムや、アントレプレナー育成プログラム、学部横断型の研究推進など、学生を成長させる取り組みが多角的に進められています。

# 京都産業大学

〒603-8555 京都府京都市北区上賀茂本山 入学センター TEL 075-705-1437 <https://www.kyoto-su.ac.jp>

## むすんで、うみだす「一拠点総合大学」。大学DXを推進し、デジタル、グローバル、イノベーションを柱とする大学改革を展開

### 「神山STYLE2030」のもと、先進の大学改革を展開

1965年に開学し、来年は創立60周年の節目を迎える京都産業大学は「産業」を「むすびわざ」と読み解き、「むすんで、うみだす」を大学の理想像に掲げて、先導的な大学改革を展開しています。

開学当時、日米安保問題などで社会全体が機能不全に陥る中、荒木俊馬は『将来の社会を担って立つ人材の育成』を建学の精神に掲げ本学を設立しました。京都産業大学は常にこの精神に立ち返るとともに、先行きが不透明な時代だからこそ『今』を正しく捉え、同大のあるべき姿、育成すべき人材像を見据えた大学改革に取り組んでいます。

その改革の基盤となっているのが同大のグランドデザイン「神山STYLE2030」です。開学50周年の2015年に策定され、21年度からは「発展期」の計画のもと、大学改革が推進されています。

生成AIの劇的な進展に見られるように、デジタル社会の時代を迎え、

大学DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進は大きな課題です。京都産業大学は、最先端の情報技術を導入し、未来を先取りしたキャンパスの構築を目指しています。

昨年5月には次世代型「スマートキャンパス」構築に向けた取り組みとして、ソフトバンク株式会社およびLINEヤフー株式会社と包括連携協定を締結しました。今後は、5G通信環境の一部を共有利用するプライベート5Gをはじめ、AI、仮想現実、画像解析等の最新技術を積極的に導入・活用するなど、未来型技術をキャンパスに実装。LINEのプラットフォームなどを活用し、学生の成長の機会を創出するほか、導入したデジタルインフラを最大限に活用することで、キャンパスを大学と社会・産業界をむすぶ、共創の場」としていきます。

### 文系・理系全10学部がワンキャンパスに集結

人文・社会科学から自然科学まで10学部、1万5000人の学生が一堂に会する京都産業大学は、キャンパス自体がグローバルでDE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)にあふれた空間です。緑豊かで自然にあふれた環境も魅力で、「ラーニング」「グローバル」「シュエーデン」「ナレッジ」の4つのコモンズをはじめ、「Innovation HUB」など、学修やプレゼンテーションで学生同士の活発な交流や創造性を引き出す工夫がされています。

京都産業大学の外国語学部や国際関係学部では多くの留学生が学んでいます。彼らも含め、共通教育科目の教室に入れば、人文・社会・自然科学という分野の垣根を越えた交流が可能で、クラブ活動やサークル活動でも自分とは異なるバックグラウンドを持った学生と触れ合うことができます。また、DE&Iに関しては学内で新たに委員会も立ち上げており、今後も教育・研究の両面で、学部の壁を越えた取り組みを進めていきます。

### 充実の教育カリキュラム アントレプレナー育成も

多様な学びの基盤となる共通教育科目も充実しています。多様化・複雑化する社会を生き抜くための教養を「異文化理解の扉をひらく」や「共生社会を構築する」など14のテーマから学ぶ人間科学教育科目をはじめ、データ駆動型社会に対応した「データ・AIと社会」は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されています。

グローバル面では、すべての学生に対し海外留学を推奨。留学プログラムは世界31カ国86大学(24年3月現在)に及び、全国に先駆けて海外インターンシップに取り組んできたことも知られます。これは、海外の日系企業や地元企業・団体などからこそ、京都産業大学は「就職に強い大学」として高い就職率を誇っています(23年度198.1%)。その背景にあるのが、充実したキャリア教育と就職支援です。キャリア形成支援教育科目「キャリア実習(インターンシップ実践型)」および「キャリア実習(職場体験型)」の取り組みは、文部科学省「令和5年度大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰」において、4年制私立大学としては初めて最優秀賞を受賞しました。

大学での学び(On Campus)と実社会での学び(Off Campus)を融合させた、実践指向型の課題解決型学習「O/O C F P B L」など、独自のキャリア教育などにより鍛えられた学生たちの就業力が、企業から高く評価されているのです。

「現代は非常に多くの課題を抱えています。この社会を変えていくのは学生の皆さんです。世界中から多くの人々が集まる京都は国際感覚にあふれ、学びの場としては絶好の街です。多様性にあふれた本学は、もちろん、京都という街全体をキャンパスに見立てて、刺激に満ちた幅広い学びに触れたい」と、京都産業大学は受験生に向けてメッセージを送っています。

「日本文化研究所」「社会安全・警察学研究所」なども活発な活動を行っています。2022年度には学部横断型による共同研究推進サポート制度が始まりました。社会的課題の多くは、いくつかの要因が複雑に絡み合い、単一学部の知見だけでは解決が困難だ

な交流や創造性を引き出す工夫がされています。京都産業大学の外国語学部や国際関係学部では多くの留学生が学んでいます。彼らも含め、共通教育科目の教室に入れば、人文・社会・自然科学という分野の垣根を越えた交流が可能で、クラブ活動やサークル活動でも自分とは異なるバックグラウンドを持った学生と触れ合うことができます。また、DE&Iに関しては学内で新たに委員会も立ち上げており、今後も教育・研究の両面で、学部の壁を越えた取り組みを進めていきます。